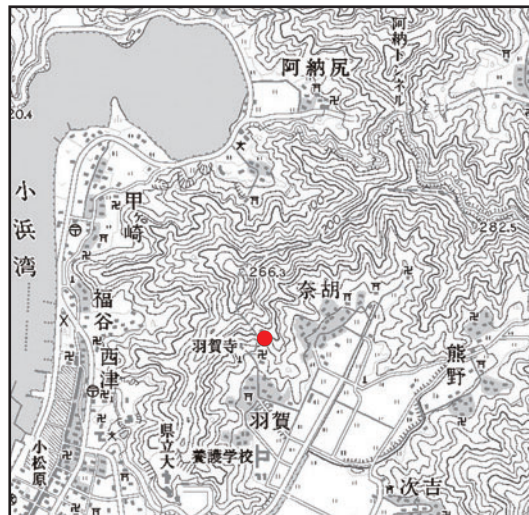


はがじ 13. 羽賀寺

所在地：小浜市羽賀
調査原因：通常砂防工事 代谷川（徳蔵坊谷川）
調査期間：令和2年5月～9月
調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
調査面積：650㎡
時代：中世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 羽賀寺は小浜市の中央部、天ヶ城山の南西斜面に開いた谷にある寺院です（写真1）。奈良時代の高僧、行基によって霊亀2年（716年）に創建されたと伝わる古刹で、中世には時の有力者たちによって再建や修理が行なわれるなど、古くから信仰を集めてきました。今に残る古代につくられた本尊の木造十一面観音立像や中世に再建された本堂など、多くの絵画や彫刻、歴史資料、典籍、書跡が国や県の指定文化財に指定されています。

この羽賀寺の一角で砂防工事が計画されたため、令和2年度から令和3年度にかけて、工事に先立ち発掘調査を行うこととなりました。今回報告するのはこのうち、令和2年度に行った調査の成果です。



写真1 調査地遠景（南から）

遺構 発掘調査をした場所は、現在の羽賀寺開山堂の裏、本堂や開山堂のある谷筋から分かれた小さな谷にあります。調査の前から、この谷の底には谷奥から順に上中下と3段の平坦面が残っていて、ほかにも、谷の側面の斜面に小さな平坦面がいくつか確認できました。昨年度の調査範囲は、谷底の平坦面のうち、一番下と真ん中、それと一番上の平坦面の一部に当たります（写真2）。

地面を掘って地層の断面を観察したところ、地表の土のすぐ下に昔の盛り土が1～3層ほど盛られていました。遺構は、場所にもよりますが、地表の土のすぐ下に当たる一番上の盛り土層の上の面と、その層の下の面から見つかっています。時期は中世以降です。

盛り土の下の方では、一番上の平坦面と真ん中の平坦面との間の斜面で土留めのような石の列が見つかりました（写真3）。このほか、真ん中の平坦面では、砂利敷き（写真4）、石の列、溝、越前焼のかめを据えた穴（写真5）などが見つかっています。

上の面には、一番上の平坦面の縁に石の集中がありました。このほか、一番上の平坦面と真ん中の平坦面との間の斜面で石の列が、真ん中の平坦面では石の集中や穴が見つかっています。

遺物 遺物は主に盛り土や地表の土の中から見つかりました。主なものとしては、土師皿と呼ばれる素焼きの小さな皿や、瓦質土器と呼ばれる瓦に似た黒い土器で作った火鉢、陶磁器の碗やすり鉢、石塔の一種である五輪塔の一部などがあります。いずれも中世以降のものです。

まとめ 昨年度の調査では中世以降の石の列や砂利敷き、盛り土などの遺構や遺物が見つかり、谷を造成して利用していたことが分かりました。今年度の調査では、遺構の続きが見つかることが期待されます。（野路昌嗣）



写真2 調査区全景（南西から）



写真3 斜面の石の列（南から）



写真4 砂利敷き（北西から）



写真5 越前焼のかめを据えた穴（南から）